

# 小学校音楽科鑑賞領域における思考力、判断力、表現力等の育成 ー感性を働かせ、音楽活動を楽しむ言語活動の工夫ー

大分市立明治北小学校 朝倉 由佳

## 要旨

新学習指導要領で求められている音楽科の資質・能力に関する所属校児童の実態調査から、音楽的な理由や根拠をもとに、自分の考えを表現することに課題があると分かった。鑑賞領域の授業においては、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて共有する言語活動の工夫が必要である。曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえて聴いたり、曲想と音楽の構造を関係付けたりするための言語活動を取り入れることで、児童は曲のよさを見だし、曲全体を聴き深めることができた。

〈キーワード〉 言語活動 曲を特徴付ける要素 曲想 音楽の構造

## I 研究の背景と目的

### 1 背景

#### (1) 現状

音楽科における鑑賞の活動は、「音楽を全体にわたって味わって聴くこと」を目指している。そのためには、「曲の特徴を手掛かりとしながら全体がどのようになっているのかを見通して聴くとともに、児童が思考し判断しながら自分にとっての曲や演奏のよさなどを見いだすことが大切なこととなる」（注1）と鑑賞の活動における基本的な考え方が新学習指導要領で示されている。

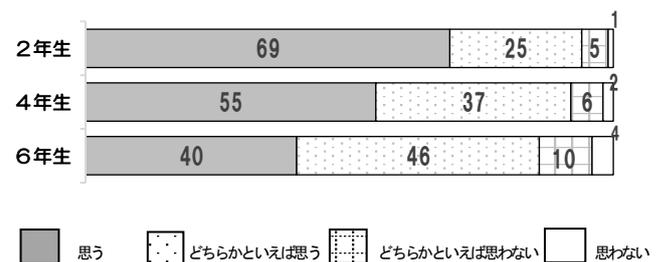
国立教育政策研究所が平成24年度に実施した「小学校学習指導要領実施状況調査」では、想像したことや感じ取ったことを、指定された音楽の言葉（音色、旋律など）と結び付けて言葉で表し、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いているかを問う設問が出された。その調査結果では、「『B 鑑賞』については、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて言葉で適切に表す指導を一層充実させ、楽曲全体を味わって聴くことができるようにすることが重要である」（注2）と指導の改善点が記されている。また、新学習指導要領でも「言葉などで表す活動を取り入れ、曲想と音楽の構造との関わりについて気付いたり理解したり、曲や演奏の楽しさやよさなどを見いだしたりすることができるよう指導を工夫すること」（注3）と指導上の配慮事項が示されている。

令和元年5月に、大分市立明治北小学校第2学年93名、第4学年109名、第6学年109名を対象に、「鑑賞」に関する実態調査を実施した。調査内容については、

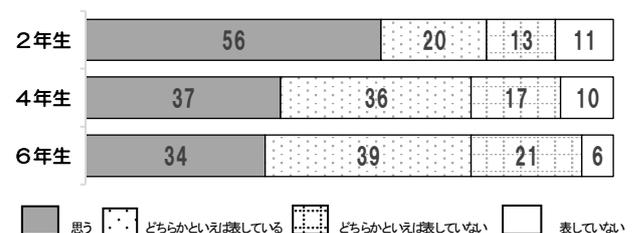
学習指導要領実施状況調査の質問紙調査をもとにした。調査の結果から、「音楽の特徴を聴き取ることが不十分であること」「音楽の特徴やよさを言葉等で表現することに苦手意識をもっていること」「音楽を聴いて想像したことや感じたことを話し合ったり文に書いたりすることが好きではないこと」の3点が問題点として明らかになった。「音楽の特徴を聴き取っている」「音楽の特徴やよさを言葉、絵、図等で表している」と回答した児童の割合が、学年が上がるごとに下がっていることや、「音楽の特徴を聴き取っている」と回答した児童の割合に対して、「音楽を聴いて想像したことや感じたことを話し合ったり、文に書いたりすることが好き」と回答した児童の割合がどの学年においても低い状況が見られた（資料1）。

### ＜資料1＞ 「鑑賞」に関する児童の実態

#### ①音楽を聴くとき、音楽の特徴を聴き取っている。（％）



#### ②音楽を聴くとき、音楽の特徴やよさを言葉、絵、図等で表現する。（％）



③音楽を聴いて想像したことや感じたことを話し合ったり、文に書いたりすることが好き。(%)

2年生	41	28	18	13
4年生	48	31	13	8
6年生	25	42	21	12

■好き □どちらかといえば好き □どちらかといえば好きではない □好きではない

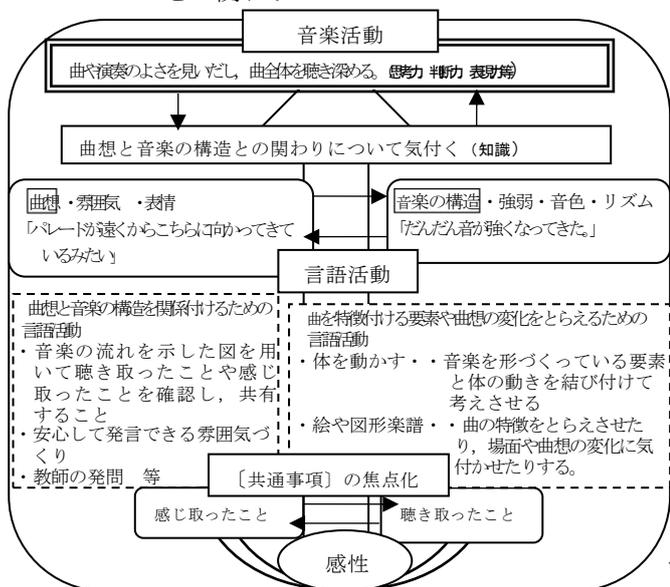
## (2) 課題

新学習指導要領では、「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力として、「鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと」(注4)と示されている。(1)の現状から、「思考力、判断力、表現力等」の育成については、「曲のよさを見いだし、曲全体を聴き深めること」ととらえた。したがって、その育成を図るために、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて共有する言語活動の工夫が必要である。

## (3) 先行研究

児童が曲のよさを見い出す過程について、野中和香(注5)は、児童が曲想と音楽の構造との関わりについて理解することを促すために、高学年児童を対象に、楽譜を効果的に取り入れた指導を行った。野中は、「楽譜で見つけたり気付いたりした根拠を、歌ったり動作を入れたりして確かめさせることで実感を伴った知識の習得につながられる」と述べており、習得した知識を活用することで曲のよさを見い出すと考えた。これらを踏まえ、曲想と音楽の構造の関わりについて共有する場面において、低・中学年での指導では、楽譜ではなく、資料2にある二つの言語活動を取り入れてみてはどうかと考えた。

### <資料2> 「鑑賞」で育成する資質・能力と言語活動との関わり



## 2 目的

本研究では、児童が曲のよさを見いだし、曲全体を聴き深めるためには、どのような言語活動が有効であるかについて明らかにすることを目的とした。

## II 仮説

音楽科鑑賞領域において、曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえたり、曲想と音楽の構造を関係付けたりするための言語活動を取り入れることで、曲のよさを見いだし、曲全体を聴き深めることができるであろう。

## III 方法

### 1 検証授業①

#### (1) 検証授業の概要

対象：大分市立明治北小学校第2学年3クラス93名  
 期間：令和元年10月1日～8日(全2時間)  
 題材：ようすをおもいうかべよう  
 「人形のゆめと目ざめ」(エステン作曲)

#### (2) 言語活動について

##### ○曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえるための言語活動

体の動きや絵の提示から、曲を特徴付ける強弱や速度の変化、曲想の変化をとらえさせる(資料3-①)。

##### ○曲想と音楽の構造を関係付けるための言語活動

音楽の流れを示した図をもとに、聴き取ったことと感じ取ったことを交流させ、曲全体をとらえさせる(資料3-①)。

### <資料3-①> 言語活動の実際(2年生)

具体的活動	活動内容																
体を動かす	・リズムを手拍子する ・強弱、速度、曲想に反応して踊る。 ・要素に合わせて手を動かす。等																
絵の提示	曲の特徴をとらえさせたり、場面や曲想の変化に気付かせたりする。																
音楽の流れを示した図	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> </tr> <tr> <td>絵</td> <td>絵</td> <td>絵</td> <td>絵</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> </tr> </table> <p>曲想</p> <p>楽曲を特徴付ける要素(強弱や速度などの変化)について示す。</p>	①	②	③	④	絵	絵	絵	絵	○	○	○	○	□	□	□	□
①	②	③	④														
絵	絵	絵	絵														
○	○	○	○														
□	□	□	□														

(3) 調査について

手段	内容
児童観察	体を動かすことや絵を用いて、曲の特徴をとらえる場面、曲想について全体で共有する場面において、児童の発言や行動を記録し、分析する。
ワークシートと振り返りカードの記述内容を分析	音楽の流れを示した図を用いて、「①どんな曲想の曲か」「②速度や強弱はどのように変化しているか」を記述した内容を分析する。
振り返りカードの自己評価	音楽の流れを示した図を用いて、「①曲の特徴をとらえることができたか」「②場面の様子が思い浮かんだか」「③自分の考えを表すことができたか」について自己評価させ、結果を分析する。
質問紙調査の結果を分析	事前及び事後調査を比較し、児童と音楽との関わり方についての意識の変容を見取る。

2 検証授業②

(1) 検証授業の概要

対象：大分市立明治北小学校第4学年3クラス 109名  
 期間：令和元年 10月21日～25日（全2時間）  
 題材：せんりつの重なりを感じ取ろう  
 「ファランドール」（ビゼー作曲）

(2) 言語活動の工夫について

○曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえるための言語活動

体の動きや図形楽譜の提示から、曲を特徴付ける強弱や速度の変化、曲想の変化をとらえさせる(資料3-②)。

○曲想と音楽の構造を関係付けるための言語活動

音楽の構造を示した図から、聴き取ったことと感じ取ったことを交流させ、曲全体をとらえさせる(資料3-②)。

<資料3-②> 言語活動の実際（4年生）

具体的な活動	活動内容
体を動かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形楽譜の旋律線を指でなぞる。</li> <li>音楽の変化に合わせて動きを変える。</li> <li>要素に合わせて手を動かす。</li> <li>要素に合わせて足踏みする。等</li> </ul>
図形楽譜の提示	旋律の動きや曲の特徴をとらえさせる。
音楽の構造を示した図	<p>音楽の構造を示した図</p> <p>王 ⑤</p> <p>王 ① 王 ② 馬 ① 王 ③ 馬 ② 王 ④ 馬 ③ 王 ⑤</p> <p>強弱</p> <p>速さ</p> <p>せんりつ</p>

(3) 調査について

手段	内容
児童観察	体を動かすことや図形楽譜を用いて、曲の特徴をとらえる場面、曲想について全体で共有する場面において、児童の発言や行動を記録し、分析する。
ワークシートと振り返りカードの記述内容を分析	音楽の構造を示した図を用いて、「①二つの旋律はどんな旋律か」「②旋律がどのように現れたか」「③旋律が重なる部分で音楽はどのように変化したか」を記述した内容を分析する。
振り返りカードの自己評価	音楽の構造を示した図を用いて、「①曲の特徴をとらえることができたか」「②曲の仕組みに気付いたか」「③自分の考えを表すことができたか」について自己評価させ、結果を分析する。
質問紙調査の結果を分析	事前及び事後調査を比較し、児童と音楽との関わり方についての意識の変容を見取る。

IV 結果

1 検証授業の結果

(1) 「児童が曲のよさを見いだすこと」について

○曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえるための体を動かすことを取り入れた言語活動

【2年生】

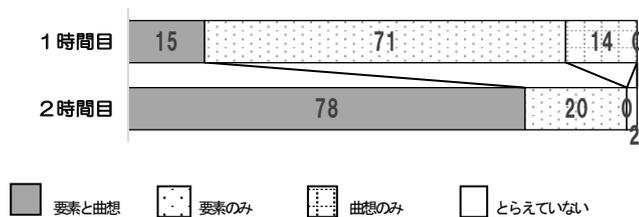
導入では、場面変化について、児童の聴取状況を把握した。場面の変化に合わせて手を挙げる活動を取り入れたところ、全児童が四つの場面の変化をとらえることができた。ここでは、「今、季節で言うなら冬みたいな感じがする」「人形が走り出したような場面だ」「地球が爆発したみたいに大きな音がした」「りすが走っているような速さだ」等、比喩表現を用いた児童の発言があった。

次に、強弱や速度など、聴き取った曲の要素を、手拍子や体の動き、手の上下の動きに置き換えて表現させた。「さっきよりも強くなった」「①の場面よりもちょっと速くなった」等、場面の前後を比較する記述や発言により、98%の児童が曲を特徴付ける強弱や速度の変化を聴き取っていた。

そして、体を動かすことによって、78%の児童が強弱や速度の変化が生み出す曲想の変化を感じ取ることができた。ここでは、「人形と一緒に眠っている」「だんだん人形と踊りたくなってきた」等、曲想と自己とを一体化させた記述や発言があった。

こうして、曲を特徴付ける要素と曲想の変化のどちらについてもとらえることができた児童の割合は78%であり、一時間目よりも63ポイント増加していた(資料4-①)。

<資料4-①> 要素を聴き取り、曲想の変化を感じ取った2年生児童の割合(%)



【4年生】

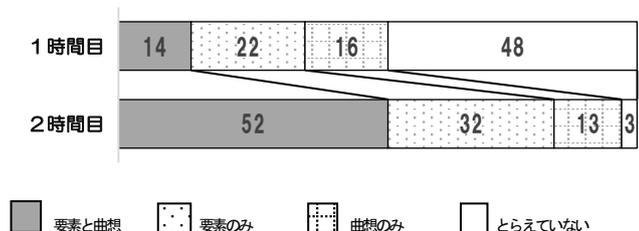
導入では、「王の行進」「馬のダンス」の二つの旋律の掛け合いを体の動きでとらえさせた。「王」「馬」の2グループに分かれ、それぞれの旋律が流れたら立たせることで、全児童が旋律の現れ方や重なりを把握することができた。

次に、速度の変化に合わせて腕の振りを大きくさせたり、強弱の変化に合わせて腕を高く上げさせたりした。「戦いが始まったような速さだ」「馬3の旋律は追いかけるような速さだ」等、比喩表現を用いた発言や記述により、84%の児童が曲を特徴付ける要素をとらえていた。

そして、「王」の旋律が流れると力強く足踏みをさせたり、「馬」の旋律が流れると手綱を持つような構えで駆け足をさせたりした。「王が割り込んできた」「馬がだんだん増えてきた」「馬と王が戦っている」等、旋律を擬人化させた表現により、65%の児童が曲想の変化を感じ取っていた。

こうして、要素と曲想の変化のどちらについてもとらえることができた児童の割合は52%であり、一時間目よりも38ポイント増加していた(資料4-②)。

<資料4-②> 要素を聴き取り、曲想の変化を感じ取った4年生児童の割合(%)



○曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえるための絵や図形楽譜を取り入れた言語活動

【2年生】

絵の提示をする前に、曲を聴きながら体を動かすことで曲の特徴をとらえていた児童が86%いた。絵の提示

はなくても「人形が森にピクニックに行っている様子」「小人が踊っている」「子守歌を歌っている」のように、児童はそれぞれのイメージを膨らませながら曲を聴いていた。

【4年生】

体を動かすことで二つの旋律の現れ方や重なりを把握させた後、図形楽譜を提示した。『王の行進』の旋律は、伸ばす音が多いから、堂々とした感じ』『馬のダンス』の旋律は、小節の中の音の数が多いから速い」等、音の高低や長さ、リズムに着目した発言があった。

そこで、『王の行進』は、王様が威張ったように歩く感じがするのはなぜだろう』『馬のダンス』は、馬が軽やかに走っている感じがするのはなぜだろう」と問うことで、児童は、図形楽譜から根拠を見つけ、要素と曲想の関わりについて発言していた。

更に、オルガンに合わせて図形楽譜の旋律線を指でなぞらせながら旋律を口ずさませたことで、全児童が二つの旋律の特徴をとらえることができた。

(2) 「児童が曲を聴き深めること」について

○曲想と音楽の構造を関係付けるための音楽の流れや構造を示した図を取り入れた言語活動

【2年生】

音楽の流れを示した図をもとに、強弱と速度に着目させながら場面の比較聴取を行った。「④の場面は②の場面よりも速くて、音が強くなったり弱くなったりする」「始めは静かでなめらか、途中で歩くような速さになる。最後は走るような速さになって、ジャーんとにぎやかに終わった」等の発言があった。

そこで、児童の発言をもとに、曲と図を照らし合わせながら聴取を行ったところ、波形や手の動きで曲全体の強弱や速度の変化を表現する児童がいた。また、強弱や速度以外にも、音色、リズム、反復(繰り返し)に着目しながら聴く児童がいた。ワークシートについても、一場面だけでなく、複数場面や曲全体について記述する児童が一時間目よりも増加した(資料5-①)。

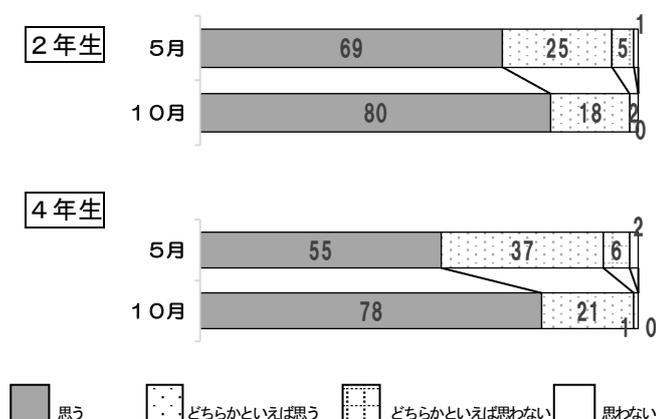
こうして、曲の全体を強弱と速度の二つの要素を併用した表現によりとらえることができた2年生児童は69%であり、一時間目よりも39ポイント増加していた(資料6)。

なお、振り返りカードにおいても、曲全体を聴き取ったり感じ取ったりすることについて「できた」と回答した2年生児童の割合は67%であった。また、授業中の発言やワークシートで、自分の考えを表していた児童



<資料7> 「曲の特徴を聴き取ること」についての事前・事後の比較

①音楽を聴くとき、音楽の特徴を聴き取っている。(%)

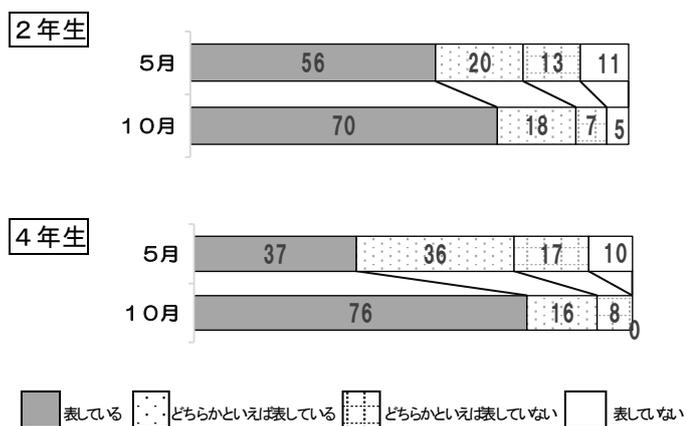


(2) 「曲の特徴やよさを言葉などで表すこと」について

どちらの学年も「表している」と回答した児童の割合が増加しており、2年生は14ポイント、4年生は39ポイント増加していた。4年生については、「表していない」と回答した児童が10ポイント減少した(資料8)。

<資料8> 「曲の特徴やよさを言葉などで表すこと」について事前・事後の比較

②音楽を聴くとき、音楽の特徴やよさを言葉、絵、図等で表現する。(%)



(3) 「文に書いたり話し合ったりすること」について

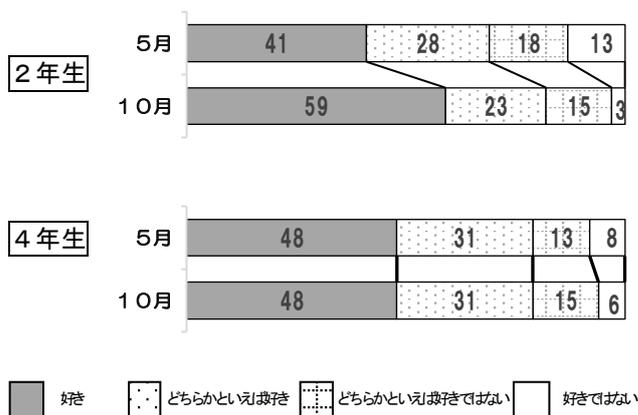
「好き」と回答した児童の割合は、2年生は18ポイント増加し、「好きではない」と回答した児童の割合が10%減少したが、4年生については、ほぼ変化がなかった(資料9)。

「好き」と回答した児童については「曲が好きになったから」「いろいろな意見が出て一人ひとり違うか

ら」「友達の意見を聞くと自分の意見の参考になる」といった理由が挙げられ、「好きではない」と回答した児童については「自分の考えが合っていたか自信がない」「どんな言葉で表したらいいかわからない」等の理由が挙げられた。

<資料9> 「文に書いたり話し合ったりすること」について事前・事後の比較

③音楽を聴いて想像したことや感じたことを話し合ったり、文に書いたりすることが好き。(%)



V 考察

1 「児童が曲のよさを見いだすこと」について

曲のよさを見いだすとは、単に「曲が楽しい、面白い」と感じるだけでなく、その楽しさや面白さはどこから生まれてくるのかを考え、曲の中から根拠を見つけることである。

児童は「この場面が楽しい、面白いと感じるのはどうしてだろう」と感じ取ったことから曲を特徴付ける要素をとらえたり、「旋律がだんだん速くなってからどんな様子だろうか」と聴き取ったことから曲想の変化を感じ取ったりすることができていた。資料4-①、4-②の結果と併せて、児童は曲のよさを見いだすことができたと考えられる。

曲を特徴付ける要素を聴き取る場面では、単に曲が「速い」「強い」だけでは表すことのできない様々な児童の表現が見られた。これは、曲を特徴付ける要素を焦点化し、要素と場面对応させた体の動きをさせたことによるものと考えられる。

曲想の変化を感じ取る場面では、曲を想起させる体の動きを取り入れた言語活動を行った。2年生では、

「人形になりきって体を揺らしたり踊ったりすること」、4年生では「王の旋律では足踏み、馬の旋律では駆け足の動き」を取り入れ、感じ取ったことを体の動きで表現させた。感じ取った理由についても、「①の場面がゆっくりで静かだった」「馬3の旋律のテンポが速くなって、音もだんだん大きくなってきた」のように、児童は曲中から根拠を見いだすことができた。体の動きを伴いながら曲を聴くことは、曲を特徴付ける要素を実感をもってとらえることにつながる。そして、再度曲を聴き直すことで、要素の働きが生み出す曲の表情や雰囲気等を感じ取ることができたと考えられる。これにより、児童は、前述の「曲を特徴付ける要素」をもとに、流れてくる音楽と一体化するような体の動きをすることで、曲想の変化を感じ取っていたことが分かった。

4年生においては、二つの旋律の特徴をとらえさせるために、図形楽譜を取り入れた言語活動を行った。図形楽譜の提示をすることで、二つの旋律の差異を比較させ、それぞれの旋律の特徴に気付く児童の発言につながることができた。これは、図形楽譜から小節中の音符の数の違いやリズム、音の高低から旋律の特徴を推測し、曲を聴いていたからである。聴こえてくる旋律と図形楽譜で気付いた特徴、感じ取ったことの三つを結び付けて考えることにより、児童は、旋律が表す表情や雰囲気等に気付くことができたと考えられる。

また、事後の質問紙調査においても、曲の特徴を「聴き取っている」と回答した児童の割合が2年生、4年生ともに増加していた。これは、曲のよさを見いだす過程において、聴き取ったことや感じ取ったことが、曲のどの要素から起因しているのか、音楽的な理由や根拠をもとに体の動きや図形楽譜を取り入れた言語活動で確かめ、判断することができたからだと考えられる。

以上のことを踏まえ、要素の働きが生み出す曲の表情や曲想の変化を感じ取ることで、児童は曲のよさを判断し、見いだすことができたと考えられる。このことから、曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえるための言語活動は有効であった。

なお、2年生における言語活動を活性化するための絵の提示については、曲のよさを見いだす前に、児童は体を動かして曲の特徴をとらえていたため、その有効性を明らかにすることができなかった。今回の検証で採用した教材曲は「人形のゆめと目ざめ」であり、曲名からも児童は人形の様子を想像しやすいと推測される。児童が身の回りにある、お気に入りの人形を想像しながら聴いていたことから、絵の提示が児童の感じ取り方を制限してしまうことも考えられる。今後は、曲のよさを見い

だす過程において、絵を取り入れた言語活動の有効性を確かめる必要がある。

## 2 「児童が曲を聴き深めること」について

曲を聴き深めることは、曲がどのように形づくられているかをとらえて、全体を見通して聴くことである。

「曲想は、音楽の構造によって生み出されるものである」と新学習指導要領に示されていることから、全体を見通して聴くことは、曲全体における曲想の変化と音楽の構造の関係をとらえることにつながる。今回の検証では、「始めは静かでゆっくりだから人形は眠っている。最後は速くて元気な音になっているから人形は踊っている」「戦っている感じがしたのは、曲が途中からだんだん速く強くなっているから」のように、複数場面の要素の表れ方や曲全体の仕組みについてとらえた児童の発言や記述が多く見られた。これは、音楽の流れや構造を図で示したことで、曲を特徴付ける要素や曲想の変化が可視化されたことによると考えられる。また、図を言語活動に取り入れることで、児童は聴き取ったこと、体の動きなどでとらえた要素、感じ取ったことを結び付けて曲全体をとらえていたと考えられる。資料6の結果と併せて、児童は曲想と音楽の構造の關係に気づき、曲全体を見通して聴くことができたと言える。

更に、曲全体の仕組みについて交流した際に、2年生では「音色」「リズム」「反復」、4年生では「音色」「調の変化」といった、強弱や速度以外の新たな要素に気付く発言や記述があった。児童は、見いだした曲のよさを生かし、新たな視点で曲を聴いていたことが分かった。特に、4年生については、「変なところがあった」「旋律が暗く聴こえて王が隠れているような感じがした」という発言を基に、曲のどの様子からそう感じ取ったのか具体的に表現させ、構造図を用いて全体で交流する時間を設定した。個々の感じ取り方を言語活動によって交流した後、「そういう感じ取り方もあるのだな。もう一度聴いてみよう」と再度音楽を聴いて確かめることで、児童は曲全体を聴き深めることができたと言える。

検証後の質問紙調査では、両学年においても「音楽のよさや特徴を言葉などで表している」と回答した児童の割合が増加していた。2年生については、「音楽を聴いて話し合ったり文に書いたりすることが好き」と回答した児童も増加していた。4年生については、「音楽を聴いて話し合ったり文に書いたりすることが好き」と回答した児童の割合にほとんど変化がなかった。ただし、「好き」と回答した児童の理由に「話し合うことで曲が

好きになった」「友達の考えが曲を聴く時の参考になった」とあったことから、児童は他者と交流することで、多様な聴き方や感じ取り方があることに気づき、曲を聴き深めることができたと言える。

以上のことを踏まえ、音楽の流れや構造を示した図をもとに全体で交流し、曲がどのように形づくられているのかを見通して聴くことで、児童は曲を聴き深めることができたと言える。したがって、児童が聴き取ったり感じ取ったりする過程において、曲想と音楽の構造を関係付けるための言語活動は有効であった。

なお、質問紙調査において「音楽を聴いて話し合うことが好きではない」と回答した児童の中には「自分の考えが合っているか自信がない」という理由が見られたことから、自分の考えを表現することに対して、自信の有無といった精神的な面が影響することが考えられる。授業では、誰もが発言しやすい雰囲気づくりに努め、音楽を聴いて感じ取ったことを交流するよさや楽しさを繰り返し味わわせる必要がある。

## VI 研究のまとめ

小学校音楽科鑑賞領域における思考力、判断力、表現力等を育成することを目的として、児童が曲のよさを見だし、曲全体を聴き深めるためにはどのような言語活動が有効であるかについて研究を進めてきた。そして、以下のような成果と課題を得ることができた。

### 1 成果

児童が曲のよさである楽しさや面白さを見いだすために、曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえるための言語活動を取り入れることは有効であった。体の動きや図形楽譜を言語活動に取り入れることで、児童は曲を特徴付ける要素をとらえることができた。更に、とらえた要素を手掛かりにし、音楽的な理由とともに、曲想の変化について考えることで、曲のよさを見いだすことができた。

児童が曲全体を聴き深めるために、曲想と音楽の構造を関係付ける言語活動を取り入れたことも有効であった。音楽の流れや構造を示した図を言語活動に取り入れることで、見いだした曲のよさをもとに曲全体を見通して聴き深めることができた。

### 2 課題

聴き取ったことと感じ取ったことを他者に伝えやすくするには、音楽的な理由を用いて説明することが必要だと児童に気付かせることである。そのためには、児童が見つけた音楽の言葉を要素ごとに板書に整理し、増やしていく必要がある。また、音色や音の強弱、リズムをとらえて擬音語や擬態語に置き換えたり、音と言葉を結び付けたりする等の言語活動を取り入れた音楽活動を、低学年のうちから段階的・継続的に行い、音楽に関する語彙を増やしていくことも必要である。

更に、自校の「音楽を聴いて感じたことを文に書いたり話し合ったりすることが好き」と感じる児童の増加に迫るためにも、今後も音楽科における言語活動の工夫について探っていく必要がある。

### ＜参考・引用文献＞

- ・文部科学省 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】平成23年
- ・広島県音楽鑑賞授業研究会「楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取るための対話を取り入れた音楽鑑賞授業の工夫」公益財団法人音楽鑑賞振興財団 平成27年
- ・文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 平成30年
- ・移行期における音楽科の指導～鑑賞の指導におけるポイント～ 教育芸術社 2018

(注1) 文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 p.25 平成30年

(注2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査結果の概要」 『初等教育資料 10月号』 pp.2-5 東洋館出版 2015

(注3) 文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 p.134 平成30年

(注4) 文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 pp.164-165 平成30年

(注5) 野中和香「曲のよさについて考えをもつ児童を育てる鑑賞授業の工夫―楽譜を取り入れた活動を通して―」 p.1 佐賀県教育センター 平成30年度